

平成22年度 学校自己評価表〔全日制〕

香川県立坂出工業高等学校

◆学校運営方針

学 校 運 営 方 針	評 価
教職員一人ひとりが工業高校の使命を自覚し、地元企業などの協力を得ながら、高度情報化社会に対応する専門的技術を習得したスペシャリストの育成を目指す。また、学習指導要領の趣旨をふまえ、基礎的・基本的な知識技術や正しい判断力、さらに豊かな創造力を身につけた人間を育成するよう組織的に取り組む。	B

◆年度重点目標および具体的目標

22年度重点目標	具 体 的 目 標
1 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学ぶ意欲を高め学習習慣の定着を図るとともに、工業に関する専門的な知識・技術を含め、基礎・基本の定着を図るため、指導方法の工夫や授業評価の改善を進める。 実習等の授業や特別活動等において、ものづくり体験を多く取り入れ、技術者に求められる実践力を育てる。 計画的な資格取得指導を徹底するとともに、学習の理解度を確認するための各種テストを実施し自己啓発を促すとともに、個に応じたきめ細かい指導の実践に努める。
2 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択につながる職業観や勤労観を育成するため、各学年等において、インターンシップや職場見学会などを活用して、系統的な指導を進める。 就職内定率100%を目指して、進路開拓や就職相談を進める。 国公立大学等への進学に対応できる学力を身につけさせるため、徹底した学習指導を進める。 社会人に求められる規範意識や心身の健康、コミュニケーション能力等を育てるために、部活動や奉仕活動等に積極的に参加させる。
3 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶をする」「身の回りをきれいにする」「高校生らしい服装をする」「時間を守る」を徹底して指導する。 集団の中で生じる問題を早期に発見して対応できるように、生徒理解のための働きかけをする。
4 信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ・携帯閲覧サイト・坂工だより等を有効に活用して、学校の情報をより広く提供する。 ものづくりの技術を活かして、地域に貢献することを目的とし、イベントを企画したり、地域の行事により多く参加させたりする。 学校内外での事故防止や事故対応マニュアルを確認し、常に教職員が適切・迅速に対応できるようにする。 情報セキュリティー実施手順、個人情報管理票により個人情報の漏洩防止対策を徹底する。

◆本年度の成果

<p>(1) 「教育課程・学習指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> 電工2種は技能試験の合格率が良好であった。電工1種は3年生が7名合格し、昨年より成果をあげた。 危険物乙種全類15名、甲種は3名が合格し、昨年より好成績であった。公害防止管理者国家試験(ダイオキシン類)も昨年を上回り4名が合格し、3年連続10代での合格者全国1位を維持した。 <p>(2) 「生徒指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> 中退者・長期欠席者共に目標の1%以内にとどまり、懲戒指導を要する生徒が減少し、欠席者も減少した。 関係機関との連携も密にとれ、充実した交通安全教育や薬物乱用防止教室等が実施でき、生徒の安全に対する意識や規範意識の高揚が図れた。 <p>(3) 「特別活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のボランティア活動への意識が高まり、清掃奉仕活動等において近隣の方々からお褒めの言葉を頂くなど、大きな成果があげられた。

(4) 「進路指導」

- ・インターンシップと工場見学を全科で実施し、専門の学習を深めるとともに、就業意識が高まり、進路選択に大いに役立った。また、ほぼ100%就職内定を実現できた。
- ・進学コースを中心に志望校に応じた個別指導を行い、入試に対応できる学力を身につけさせた。その結果、国公立大学に3名が合格した。

(5) 「安全管理」

- ・防災講話・避難訓練における生徒の行動は概ね良好であった。
- ・各科・週番職員等による日々の校内巡視や学期毎の校内防災査察を実施した。適宜生徒への危険箇所等の周知・指導を行い、点検不備等による事故はなかった。

(6) 「保健管理」

- ・水質検査や教室等の照度検査を定期的に行い、校内における環境衛生の改善を図ることができた。また、保健だよりの毎月の発行により、生徒の健康管理能力向上の手立てとなった。

(7) 「研修」

- ・授業相互参観や公開授業、初任者研修での研究授業など授業研修の機会が多く設定された。また、「ものづくり」における先進校の視察を行い、「ものづくり」や各種競技大会への参加への取組み・資格試験指導等において大いに参考となる点があり、本校教員の指導力向上をはかる刺激となった。

(8) 「保護者・地域住民との連携」

- ・学校だよりの大幅な充実やホームページの更新にも努め、保護者・地域の方々への充実した情報提供が行えた。
- ・体験入学や小学生親子ものづくり教室には昨年以上の参加があった。アンケートで高評価が得られ、開かれた学校づくりおよび地域との交流の所期の目的を達成することができた。

◆次年度への課題**(1) 「教育課程・学習指導」**

- ・ものづくり教育をさらに充実させるとともに、各種競技大会やものづくりコンテストにより積極的に参加することなどにより、工業のより高い実践力の育成に努める必要がある。
- ・平常日に家庭学習をほとんどしない生徒が約7割を占めるが、6割の生徒は自分自身の学習時間が短い事を自覚している。この意識を家庭学習用の課題などで、家庭学習時間の増加に結び付け、家庭学習習慣の定着を図る必要がある。
- ・各科で資格取得を目指した課外指導等を行い、十分に成果を上げているものもあるが、中には部活動や他の勉強と重なるなど、学習が不十分で合格率が低いものもあり、対策を必要とする。

(2) 「生徒指導」

- ・関係機関と連携し、生徒の規範意識の高揚を図った。大きな問題行動は少なく成果が現れているが、依然一部に意識の薄い生徒がいて、今後とも継続的な指導が必要である。
- ・事情により年度の途中で退学した生徒、長期欠席者、また一部に欠席・欠課の多い生徒がいる。家庭およびスクールカウンセラー等の協力を得ながら、問題を抱える生徒への支援を行う必要がある。

(3) 「進路指導」

- ・本校の就職率の良さは多分に地元企業と本校との長年の絆に支えられ、先輩の活躍に負うところも大きい。生徒は自分の力で就職内定を勝ち取ったと錯覚している点があり、意識改革が必要である。
- ・基礎学力、基礎知識の定着が十分とは言えない。また、将来を見据えた志望校の選択がなされず、安易に指定校に流れている生徒も一部に見受けられた。早期から目標を持たせ、より計画的に進学指導を進める必要がある。

(4) 「特別活動」

- ・部活動では生徒が活躍し例年以上の成果を上げている部も多くある反面、1年生で部活動を退部した生徒が例年よりやや多い。3年間頑張らせる指導に加えて退部者に対する生活指導も重要である。
- ・部活動単位での自主的・継続的な清掃活動や近隣の保育所等との交流を、より一層進める。

(5) 「保健管理」

- ・インフルエンザの感染者は少なかったが、今後も感染症に関する講話等を実施し、ホームルームのテーマについても感染拡大防止につながるものを取り上げていきたい。

(6) 「安全管理」

- ・生徒には、使用機会ごとに安全な使用方法について指導しているが、生徒の不注意による小さな事故も多少あり、今後、より一層安全教育の徹底が必要である。

◆評価段階

A	達成できた
B	ほぼ達成できた
C	あまり達成できなかった
D	達成できなかった

◆学校自己評価

分類	分掌	評価指標	評価規準	評価		
				具体的結果・根拠	小項目	大項目
教育課程・学習指導	教務	魅力ある授業の提供	生徒からの授業評価および、教員による相互授業参観を年2回ずつ実施して授業を改善し、より魅力ある授業の実現を図る。	授業評価、相互授業参観ともに予定どおり2回実施した。授業評価の結果を各教科担任が授業において生徒に説明し、改善案を示すなどフィードバックした。	B	B
	教務	学習習慣の定着と基礎学力の充実	自主学習の時間等により学習習慣の定着を図るとともに、評価や指導の工夫等により、学習やテストへの意欲を持たせ、基礎学力の向上をめざす。	評価方法を教科内や教務で協議、検討改善した。指導においては特に定期考査の成績不振者への事後指導を学校全体で取り組み、ある程度、意識改革ができたと思われる。	B	
	1年団	基礎学力の定着	定期考査時の家庭学習を充実させる。小テスト等を活用し、学習に積極的に取り組ませる。	小テストの事後指導などに積極的に取り組んでいる。その効果が表れるまでにはまだしばらく時間が必要だと思われる。	B	
	機械科	専門分野における実践力の育成	生徒全員に、作品の製作をととして技能を身に付けさせる。また、昨年度よりさらに資格等を積極的に取得させる。	公開展の年であるため、生徒は作品製作に取り組んだ。資格取得は例年並み	B	
	電気科	資格取得の充実	1年生で計算技術3級・情報技術3級の全員合格、2年生で電工2種合格、3年で電工1種、電験3種の合格をめざす。	計算技術検定はほぼ予定どおりの結果であった。電工2種は筆記試験では振るわなかったが、技能試験の合格率は良好であった。電験3種は科目合格にとどまった。電工1種は3年生は7名合格し、昨年よりは増加した。	B	
	建築科	資格取得の充実	トレース検定、標準テストの90%合格をめざす。	トレース検定は1学期末から指導を始め、課題を与え指導中である。	B	
	化学工学科	資格取得の充実	危険物乙種取得90%以上、甲種及び乙種全類取得表彰者数において前年を上回る。公害防止管理者ダイオキシン類合格者数全国1位を維持する。	危険物乙種全類14名、甲種3名はいずれも昨年を上回った。乙種取得3年は94%で目標達成した。2年は83%で次回に期待する。ダイオキシンは4名合格で昨年を上回り、3年連続10代での合格者全国1位を維持した。	A	
	国語科	実践的国語能力の育成	読む、書く、聞く、話すの各活動をととして、十分に理解し、適切に表現できる言語能力を身につけさせる。	漢字テストの事後指導を通じて語彙力充実に努めた。また、三年生については実践的な指導に力を入れた。	B	
地歴公民科	基礎学力の定着・向上	授業内容を精選し、生徒が興味・関心を持つようなわかりやすい授業を立案し、基礎学力の向上を図る。	復習の時間を取り入れるなど学習内容の定着をはかった。	B		

	数学科	個々の能力に応じた指導の徹底	課外や個別指導を行い、基礎学力および入試に対応する力を身につけさせる。	課外の計画的な実施や1日1題プリントの活用等で個々の能力に応じた指導を実践した。	B
	理科	基礎・基本を重視した授業	基本事項の復習や、問題演習の時間を確保する。	単元毎や考査前に復習の時間を設定したが、授業進捗の関係で時間的に少ないクラスもあった。	B
	英語科	基礎学力の定着・向上	英単語テスト・実力テストを充実させ、事前事後指導を徹底し、基礎学力の定着を図る。	英単語テスト・実力テストの前には、宿題や自主学习プリントを課し、提出の徹底を図った。また、事後には、成績不振者を対象に、追試や居残り学習を実施し、全員が合格するまで指導をした。まだ結果にはっきりと現れてはいないが、生徒の学習に対する意識が以前より高まった。	B
	保健体育科	生涯スポーツに向けての実践力の育成	仲間と協同して体を動かすことの喜びや達成感を体験させ、生涯スポーツに結びつける。	多くの生徒が意欲的に活動しており、概ね目標は達成できている。しかし、一部の生徒は種目によっては積極性がないので、今後の課題として捉えている。	B
	家庭科	生活的自立力の育成	被服実習、食物実習等を通して基礎的な知識・技術を習得させ、家庭生活において実践できる力を養う。	ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいるが、一部に意欲のやや低い生徒も見られる。毎時間の振り返り学習や実技テスト等を取り入れて、学習内容の定着をはかった。	B
	音楽科	芸術的な感性・創造的な表現力の向上	高校生に親しみやすい楽曲も取り入れながら、歌唱・器楽演奏などを積極的に行い、基礎的な奏法を正しく身につけさせ、かつ1人1人の個性を生かした表現力を養う。	ギターの基礎、その実技試験も順調に進み、グループごとの合奏まで到達している。現在は生徒達の自主性と協調性を生かしつつ、作品を仕上げる段階に入っているものの、クラスによって進捗に差ができています。	B
生徒指導	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	家庭と連携し、中退者1%以内、長期欠席者1.5%以内にする。また、懲戒者や欠席者・遅刻者の減少をめざす。	中退者・長期欠席者共に数値以内である。懲戒者は減少している。欠席者・遅刻者についても、減少している。	A
	生徒指導	安全教育と規範意識の高揚	登校指導や校内巡視、校外補導、運転免許センターや自動車学校等の巡視を定期的実施し、事故の減少をめざす。	先生方の協力を得ながら実施し、徐々に成果が表れ補導された生徒いなかった。	A
	生徒指導	外部との連携強化	警察等の関係機関と協力して、交通安全教育や薬物乱用防止教室・防犯教室を実施するとともに、少年育成センター・PTA等と合同で校外補導等を行い、連携に努める。	関係機関と協力して、各行事を開催している。校外補導等も関係機関と連携しながら行った。	A
	教育相談	相談しやすい環境作り	スクールカウンセラーによる個人面談を昨年度以上に実施し、生徒・保護者の相談に早期に対応する。	スクールカウンセラーによる面談を継続的に実施した。	B
	教育相談	不登校傾向生徒、特別支援を要する生徒、保護者への適切な対応	不登校傾向のある生徒、保護者への対応を工夫するとともに、特別支援が必要な生徒に対しての支援体制を確立し、チームとして対応する。	担任を通じて不登校傾向の生徒に対し面談を計画した。アンケートにより支援の必要な生徒を抽出し、支援体制作りを検討した。	B

	機械科	基本的な生活習慣の確立	服装、挨拶、言葉遣いなどをきめ細かく指導する。	特定の生徒が度重なる指導にも関わらず改善できない面がみられた。	B
	電気科	基本的な生活習慣の確立	保護者との連絡を密にして、出席率 98.5%をめざし、学習習慣を定着させる。	数名の特定生徒の遅刻、欠席の回数が多く、あまり改善されなかった。	B
	建築科	基本的な生活習慣の確立	家庭との連絡を密にして遅刻・欠席をなくし、良好な学習環境を整える。	欠席率、遅刻率とも平均 1%以内であり、学習環境が整えられるようになってきた。	B
	化学工学科	基本的な生活習慣の確立	SHR時の担任による注意、職員室入室時の全職員による声かけ等を通じ、基本的な生活習慣の確立と生徒の状況把握を行う。	SHR時のバッジ、ネームの指導などは継続して実施できている。	B
特別活動	特別活動	ボランティア活動の充実	生徒のボランティア活動やリサイクル活動などへの関心を高め、積極的に参加する態度を養う。また、保育所との交流や清掃奉仕などとおして、社会性を身につけさせる。	部活動単位の清掃活動や保育所との交流等は引き続き積極的に行われている。また、共同募金呼びかけ等の活動にも参加し、ボランティア意識は徐々に高まってきている。	B
	特別活動	部活動の活性化	1年生の入部率を上げ、全国大会出場数を3以上、四国大会出場数を5以上、それぞれの達成に向けて競技力の向上に努める。	1年生の入部率は高くなった。しかし、退部者数も増加傾向にあり現在の課題となっている。全国大会及び四国大会出場数はほぼ達成できている。	B
	人権・同和教育	効果的なLHR活動の推進	LHRの計画と指導案の見直し作業を行う。	LHRと学年集会10回中、3回分の見直しをした。	B
進路指導	進路指導	職業観・勤労観の育成	インターンシップや職場見学会、社会人講師の招聘等を通して、勤労意識の向上や社会人・職業人となるための自覚を持たせる。	建築科は7月に、他の3科は11月に計画どおり実施し、報告会を各科で行った。	A
	進路指導	進路支援の推進・充実と進路希望の実現	応募前の職場見学会やオープンキャンパスへの参加を積極的に促し、ミスマッチが起こらないよう指導する。企業訪問や学校訪問を積極的に行い、正しい情報の収集と追指導を実践する。	全国的に高校生の求人状況が過去最悪であるにもかかわらず、本校生徒は例年とほぼ同様なペースで内定を得ることができた。1/14現在の民間企業内定率は98.6%である。（公務・縁故を含めると98.7%）	A
	進路指導	進学指導の充実	明確な目的を持った進学意識の向上を図る。基礎学力の定着から、高度な応用力の育成までの指導を実践する。	大学教育に対応できる能力が定着しておらず、目標に到達するために努力しようとする意識の低い生徒が多い。	B
	2年団	進路意識の高揚	進路について自ら調べる態度を養い、3年次の進路選択が適切にできるよう指導する。	ホームルームや保護者懇談、インターンシップ等を通して進路意識は高まりつつあるが、まだまだ意識の低い生徒も少なくない。	B
	3年団	適切な進路の決定	早期に生徒の進路意識を高め、保護者との情報交換もさらに図りながら、目標の達成に向けて積極的に取り組むよう指導する。	進路意識の向上に努めたが、残念ながら一回目の就職試験受験者のうち、1割強の生徒が不採用であった。但し、社会状況を考慮しまた他校の状況と比較した時、まずまずの結果と考える。現在、就職希望者の内1名のみ未定である。	A

	機械科	職業観・勤労観の育成	インターンシップや企業実習をとおして適切な進路を選択させる。	約2割が不採用であったが社会状況や他校の様子と比較しても悪い結果ではないと思う。	A	
	電気科	職業観・勤労観の育成	インターンシップをとおして専門性、勤労観を育み、職業選択に役立てる。	インターンシップは11月に実施した。就職内定率は厳しい中でも昨年並みの内定率であった。	A	
	建築科	職業観・勤労観の育成	インターンシップをとおして勤労の精神を養い、そこで学んだ知識を進路選択に役立てる。	インターンシップで建築実務を経験し、勤労の大切さを学んだ。体験した企業に就職する生徒もあり、進路の決定に効果は大きかった。	A	
	化学工学科	職業観・勤労観の育成	進路指導部と連携をとり、1年次に工場見学、2年次全員にインターンシップ、3年次に企業実習を実施する。さらに、就職・進学希望者ともに100%の進路先決定をめざす。	5月に1年生に工場見学、3年生に企業実習を実施した。2年生に対するインターンシップも全員の生徒が専門性の高い企業において参加でき、成果があった。就職試験の内定者は100%である。進学希望者も全て進路先が決定した。	A	
	進学コース	進学指導の充実	大学入試に向けて応用力を身に付け、大学入学後の学習等に対応できるだけの力を養う。	課外や校外模試を通して受験生としての基礎力養成を図った。学習習慣がある程度定着し、受験生としての意識が高まった。進学コースの5名中3名が国立大学に合格した。	B	
安全管理	学校全体	危機管理能力の向上	防災講話・避難訓練・交通講話・防犯教室・ホームルーム活動などをさらに充実させ、教職員及び生徒の危機管理の意識を高め、事故を回避できる能力、事故発生時の対応能力を向上させる。	避難訓練では緊急地震速報を使い、昨年よりも早く避難ができ、防災講話とともに、防災ホームルームを1年(台風)、2年(地震)、3年(まとめ)と学年ごとに段階的に行えるように取り組んだ。	B	B
	学校全体	危険物等の適切な管理・取扱い	実習機器、機材、薬品などのチェックを常に行い管理に万全を期すとともに、生徒の安全に対する意識をさらに高め、実習などの使用時における安全指導を徹底する。	安全に対する教職員の意識は高く、機材や薬品等の管理がきちんとなされている。生徒には使用機会毎に安全な使用法について指導しており、生徒の不注意による小さな事故も多少あったが、実習等は概ね安全・円滑に実施された。	B	
保健管理	保健	感染症の早期予防対策の徹底	感染症に対する予防対策を知らせ、自己の健康管理等の一助とする。麻しんの予防接種の完全実施をめざす。	保健室だよりを毎月発行し、生徒へ健康管理について啓発を行った。10月の段階で、麻しんの予防接種の接種率は66.7%となっていたので、未接種の生徒に対して予防接種の呼びかけを行ったところ接種率は75%となった。	B	B
組織運営	教育研究	校内LANの活用	ネットワーク環境の利用促進とセキュリティ確保の両立を図る。	問題なく活用されているが、教育支援サービスの活用をPRする必要がある。	B	
	事務	適正な会計事務の執行	学校会計負担区分基準表に則った、適正な会計事務の執行に努める。	「学校会計負担区分基準表」を確認しながら日々の会計事務に努め、これまでの執行状況についても、再確認を行った。	B	
	学校全体	校務運営の機能化、効率化、個人情報保護	各科、分掌、学年団、教科等相互の情報の共有、組織間の連携に努めるとともに、情報セキュリティ委員会を中心に、情報資産の保護および個人情報の管理を徹底する。	主任を中心に校務の円滑な運営、情報の共有化に努めたが、各科・分掌等で個々に取り組む内容が多く、組織の連携が十分とは言えなかった。個人情報保護については情報セキュリティ実施手順に従って全教職員が情報管理票により情報資産の管理を徹底した。	B	B

保護者・地域住民との連携	教育研究	現職教育の充実	各教科で授業研修を実施して、指導力の向上を図る。各種研究会の参加報告を行い、情報を共有して指導に生かす。	よく活用されているが、教育支援サービスの活用をPRする必要がある。	B	B
	教務	信頼される学校づくり	ホームページや学校だよりを充実させ、地域や家庭への情報提供に努める。	坂工だよりは、昨年度（年4回発行）より大幅に多い12回発行した。ホームページは昨年度より更新の頻度は多い。	A	A
	渉外	PTA活動の充実	近隣の高校と連携し、合同交通安全活動や合同補導を実施する。	坂出市内四高校合同で連携して7月と9月に夏季街頭補導を、4月と7月に登校時合同交通指導を実施した。また、坂工展では保護者が中心となって、フリーマーケットと喫茶バザーが行えた。	A	
	機械科	地域との交流	小学生親子ものづくり教室などとおして地域との交流を図る。	好評であった。次年度は内容を検討する。	A	
	電気科	地域との交流	小学生親子ものづくり教室を開講して、地域に開かれた学校をめざす。	時間的にも内容面でも好評であった。とくに本校生徒が参加者をよくサポートし、全員が完成できたことが良かった。	A	
	建築科	地域との交流	小学生親子木工教室を充実させ、地域に貢献する。	多くの小学生と保護者に参加していただき、良い評価を得た。継続しての開催を望む親子が多かった。	A	
	化学工学科	地域との交流	ものづくりコンテストに参加し、四国大会出場をめざす。さかいで塩まつりや小学生対象の親子ものづくり教室、などのものづくり体験実習講座および生徒への実技指導講習会を実施する。	ものづくりコンテスト四国大会では、化学工学科では過去最高の2位となった。塩まつりも5万人の来場者があり、約200名の方に体験いただいた。親子ものづくり教室、生徒への実技指導講習も行った。	A	
施設・設備	施設整備	環境整備	美化委員・奉仕部等を活用し、校内清掃の徹底、校内緑化・花作りを推進する。	美化委員による花を植える活動や、清掃道具の修理等の活動ができた。市内清掃活動は改善しながら、本年も実施することができた。	B	
	事務	環境整備	生徒・教職員の要望を踏まえ、学習環境や部活動における環境の整備を行う。	機械科で使用している備品の修理や新体操部ホッピングマット等の購入を行った。又、2号棟の漏電箇所、溶接実習棟北側の漏水箇所について調査を行い、不良箇所の修繕を行った。	B	

◆学校評議員学校評価集計表

評価項目		学校評議員の意見
学校行事	公開授業 5/8	静かに集中した授業が展開され、板書等の工夫も見られた。教師からの説明が多かったように感じられ、もう少し作業活動等の導入を望む。
	体験入学 8/25・26	多くの参加者があり、いい傾向だと思う。反応を今後の学校経営等に活かすことが大切だと思う。
	坂工展 10/22・23	生徒と教師が一体となり、かつ各学科の専門性を活かした展示は、専門高校らしく好感が持てた。こうした機会にプレゼン能力をより磨いてほしい。文化部の展示も少し増やしたら良い。
	その他	中学生とその保護者に対し、工業高校の魅力を十分にアピールできている。今後、内容をより精選していければさらに良いと考える。

各種評価	学校評価 (保護者・教職員アンケート調査等)	きめ細かなアンケート実施と処理が行われており、全体的に評価結果は良くなっている。良くなった要因を見逃さず次に繋げることは重要である。PTA 役員会や学校だより等で示していくことがますます求められる。
	生徒からの授業評価 5月下旬 12月上旬	教科担当から評価結果を生徒に開示して、授業改善策を提示している事は大変良いが、実施の裏付けを確認する必要もある。生徒の約6割が、「授業が改善された」と答えていることは評価できる。生徒からのアンケートは、生徒の授業に対する啓発の意味も大きいと思うので、粘り強く取り組んでほしい。
	公開授業アンケート	肯定的な内容であり、実施する意味は大きい。良い反応が多く、安心している。
	その他	特記事項なし
各種指導項目	教科指導 専門教科・普通教科	定期考査の成績不振者への事後指導を学校全体で取り組んでいることは評価できる。普通教科に比べ専門教科に対する評価が低い事については問題があり、本質・原因を確認し改善を願う。公的資格取得の推進は、工業高校としての、専門基礎知識向上への良い取り組みだと考える。
	生活指導	素晴らしい成果が出ている。気持ちの良い学校訪問ができた。努力に敬意を表するとともに、今後もこの方向で願います。
	進路指導 就職 進学	現状の厳しい環境の中、高い内定率を達成し、かつ、進学コース5名中3名が国立大学へ合格しているなど高く評価できる。
	施設設備	危険な実習機器・機材等もあろうと思われるが、常に安全・安心の徹底をお願いする。
	部活動 運動部・文化部	健全育成の上からも、是非充実させることが大切である。部活動が活発に行われているが、反面約2割の生徒が参加していないのは残念であるとともに、もう少し文化部の部数が増える方が良いのではないか。
事務部	学費納入等に問題は生じていないか。	
自己評価表	総合評価が昨年同様「B」評価だが、改善された項目も多くあり、改善が順調に進んでいると感じる。評価において、具体的結果・根拠を書くようにしており具体的事例を極力提示しようという試みは評価できる。	
その他の評価・意見	学校評価のモデル校として、ここ数年の努力に敬意を表したい。各種評価項目に対して、真摯に対応している事は高く評価できる。坂工だよりの発行回数を12回に増やしたことは、学校の記録としての役割もあり評価する。評議員会に出席し感じることは、先生方の学校を良くしようとする熱意を感じる一方、アンケート結果にとらわれ過ぎて、要因の分析まで至っていない所も少し感じた。結果をしっかりと検証して、改善方法を探し続けてほしい。ホームページの「中学生の皆さんへ」が活用されていないのは、残念である。部活動が非常に盛んであるが、もう少し文化部が盛んになればより素晴らしいと感じ、美術部や英会話部等があっても良いと思う。吹奏楽部が頑張っているのは、素晴らしい。工業高校は、技術立国の日本において無くてはならない存在であると考えており、今後もものづくり技術の魅力を生徒に伝え、日本の産業の根幹を支える存在であり続けていただくことを期待する。	